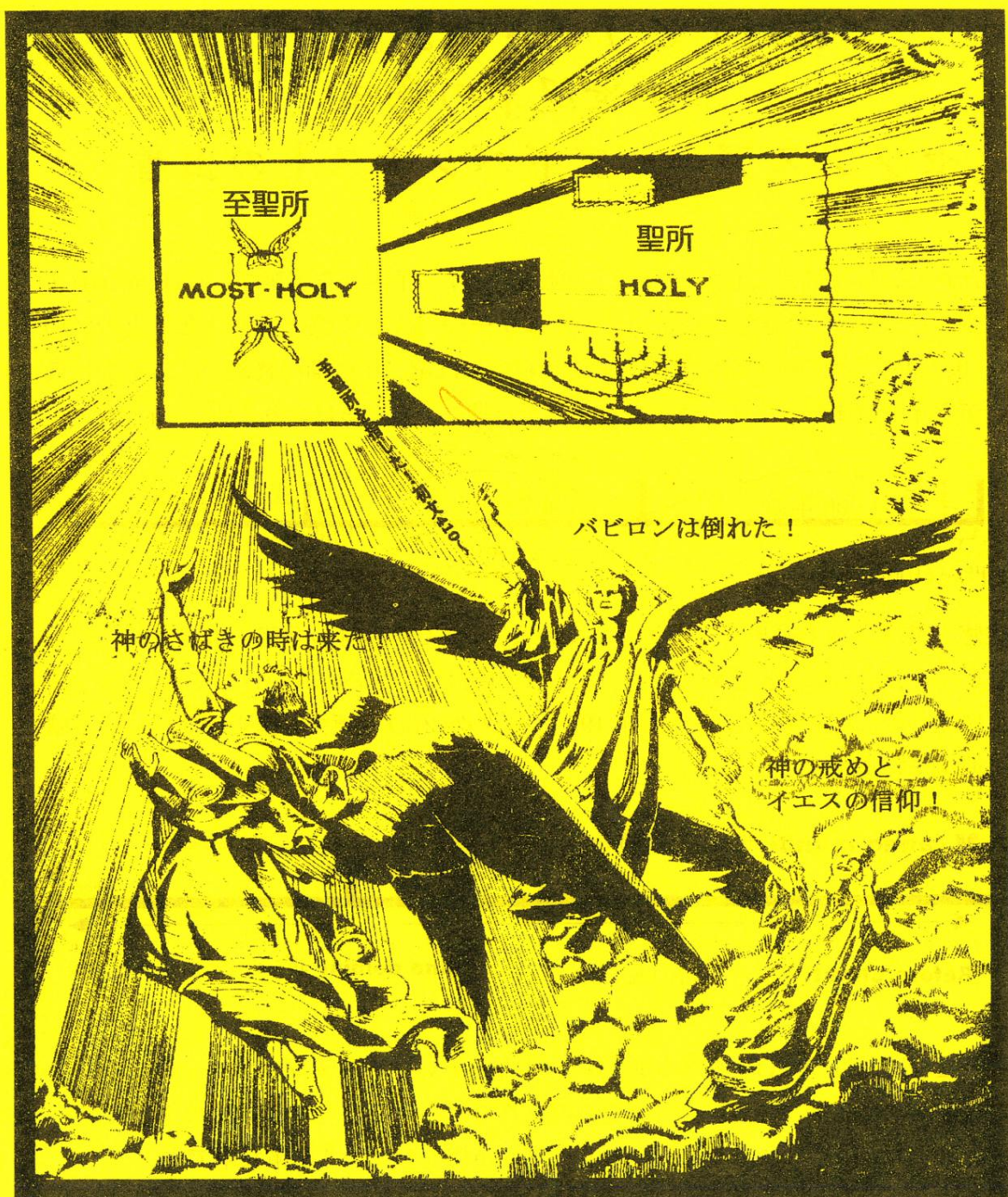


NO.23

Anchor

アンカー



第一天使

第二天使

第三天使



1999年

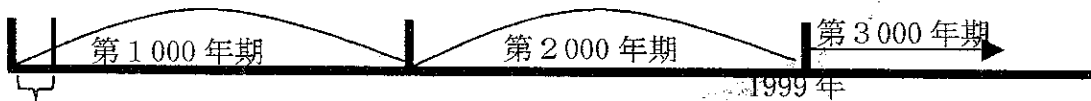
明けまして

おめでとうございます！？

二十世紀末の意味

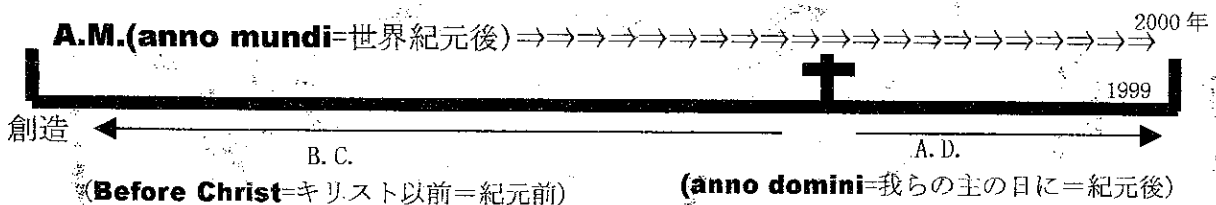
セブンスデー・アドベンチストの出番

また新しい年を迎えました。いよいよ世紀末です。千年期を英語で、Millennium(ミレニウム)と言い、世紀を Century(センチュリー)と言い、世紀の中の十年ごとの区切りを Decade(デケイド)と言います。ですから今年(1999年)は第二千年期の終わり、二十世紀最後のデケイド(十年)です。まもなく第三千年期に入ることになります。



1 世紀(100 年間)

靈感の書は、地上歴史約六千年としています。「この預言の言葉を暗闇に輝くともしびとして、それに目をとめている」ならば、時はもう「終わりをさして急いでいる」ことに気づくはず(2ペテロ 1:19、ハバクク 2:3)。預言と歴史は前へ前へと確実に進んでいます。



時が近づけば近づくほど時の切迫感に疎くなるというのは人間の性質なのでしょう。世の常なのでしょう。「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう」と主イエスは言われました。未曾有の事件が切迫している厳粛な年です。

聖書の預言がなければ、決して「明けましておめでとう」とは言いたくない年であります。しかし、「忠実なまことの証人」の約束に基づいて見るなら、すばらしい年だと思います。また「これらの事が起こり始めたら、身を起こし頭をもたげなさい、あなた方の救いが近づいているのだから」というみ言葉があるので「ア・ハッピー・ニューイヤー」と言うこともできるでしょう。

一方、神の民にとっては「物を買うことも売ることもできない」という経済ボイコット、獣とその像を拝ませるといふ事件、大迫害、「国が始まってから、その時まで、かつてなかったほどの悩みの時」が目前に迫っていることを思うと「おめでとう」とは軽はずみに言いかねる、厳粛な年でもあります。

「主の大いなる日は近い、近づいて、すみやかに来る（急ぎ足でやってくるーリビングバイブル）。主の日の声は耳にいたい。そこに、勇士もいたく叫ぶ」（ゼパニヤ 1:14）。

①近い、②近づいて、③すみやかに来る

ある方が、この三つのステップをナイアガラの流れにたとえました。滝に近づくにつれ流れはだんだん速くなっていきます。ついにステップ③で、水は恐ろしいほどの音を立てて滝壺に落ちます。今は滝壺に向かって激流がスピードを増していることに気づいて、何をなすべきかを真剣に考える時ではないでしょうか。無気力、無関心、あきらめと戦わなければなりません。

第三千年期に向けて

ローマの準備

去年、アメリカに行ったとき、オレゴン・カンファレンスのABCに寄りました。興味深い本が目につきましたので、購入しました。それは、法王ヨハネ・パウロ II の “Celebrate 2000” 「2000 年を祝おう」といふ本です。もうすぐやってくる、イエス・キリストの二千年目の誕生日をみんなで祝おうという全世界の人々への招待です。その大祝典は、第三千年期の劇的な開会式になるとい



うのです。この「大聖年」「大ヨベルの年」のために、1955 年から準備を進めてきているそうです。ヨベルの年とは、すべての奴隷が解放され、負債が免除される贖罪と和解の年でした。それをローマは計画しており、少なくとも一年間は続くそうです。

そのために、法王は 1997 年をイエス・キリストの年、1998 年を聖霊の年、1999 年を父なる神の年として設定し、その準備を続けています。彼は教会の誤りを謝罪し、「我をゆるしたまえ」と謝罪外交にいそしんできました。第三千年期にむけての「精神運動」だそうです。それはプロテスタント、ユダヤ教、イスラム教、あらゆる宗派との和解一致を成し遂げようとのねらいです。紀元 2000 年にはユダヤ、イスラムの指導者と共にシナイ山に登るという計画だそうです。

この演出はサタンの大欺瞞であることを、私たちはたやすく読みとれるはずです。

1. 「反キリスト」「不法の者（罪の人＝欽定訳）」「サタンの代表者」「サタンの生んだ一大傑作」が、どうしてキリストの誕生を祝うのでしょうか。
 2. 過去において無謬を主張し、そして現在もそれを主張している法王教が、どうして今になって「我をゆるしたまえ」と謝罪するのでしょうか。カメレオンのような法王教にだまされるほど、プロテスタントをはじめとする諸宗教は盲目になっているのです。
- 「カトリック教会は無謬の主張を決してやめないであろう。この教会は、その教義に反対する者を迫害するために行ったすべてのことを、正しいと主張する。とすれば、機会があったら同じ行為をくり返すのではなかろうか」（大下 319）。
3. 十戒をも変える権威を主張する教会が、十戒が与えられたシナイ山に登るというのは、一体何をもくろんでいるのでしょうか。「各時代の大争闘」を読んでいるセブンスデー・アドベンチストには容易に想像できることです。
 4. 第三千年期は、彼らにとっての「福千年期」なのです。

『何も驚くことはない。キリスト再臨に先立って、全世界は悔い改める。そして義は、千年の間支配する。平和だ。平和だ。万物は、世の初めから同じように続く。だれも、こうした警世家の扇動的な言葉に動かされてはならない』と彼らは叫ぶ。しかし、この福千年期の教理は、キリストや使徒たちの教えと一致していない」（あ上 103）。

「旧教徒、新教徒、それに世俗の人たちも……この合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである」（大争闘下 351）。

「プロテスタントの諸教会内において、共通の教義を土台として合同しようとする気運が強く動き出している。このような合同を達成するためには、たとい聖書

的な見地からどんなに重要なものであっても、すべての者が一致しない問題点は、必然的に放棄されねばなくなる」(大争闘下 164)。

5. 「彼は海(複数)の間にある美しい聖山に、天幕の宮殿を設ける(欽定訳)」(ダニエル 11:45) でしょう。「自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する」(2テサロニケ 2:4) のです。全世界を支配するためです(黙示録 13 章、17 章)。

やがてそれは、「欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕」「サタンはキリストを装う」「強力な、ほとんど圧倒的な惑わし」と結びつくでしょう(大争闘下 398 参照)。

6. 「聖書を熱心に研究し、真理の愛を受けたものだけが、世界をとりこにする強力な惑わしから守られる。聖書の証によって、これらの者は欺瞞者サタンの変装を見破る」のです(大争闘下 400)。「み言葉の光と聖霊の解明」とによって見るとき、我々は悪魔の策略を見破ることができ」るのです(大争闘上序 9)。そのために各時代の大争闘が書かれたのです。

7月27日

七のパワー

5

「われを許しなさい」

法王ヨハネ ハウロ二世は

前任から百回以上 この言葉を繰り返している

昨年八月、フランスで開かれた若者の集まりでは「まず新教徒におわびです」と切り出し

断罪を撤回させた。四世紀前にカトリック教徒がフランスの新教徒を虐殺したカルメルス事件への謝罪だった

九月にはフランスのカトリック教会が、ナチスによるユダヤ人迫害に抵抗しなかった戦時中の誤りを認め、今年三月にはハチカンが公式に、オロコーストを謝罪した事を偶然ではなかった

こうした動きは偶然ではない。西暦二〇〇〇年の大争闘に向けて過去の罪を認め、第三千年紀に入るという精神運動なのである

「大争闘には、少なくとも三千万人が参加する」と警告、ふだんより二千万人多いと動員します。ローマ市は、大争闘に向って道路や駐車場の大改造を進めています

ハチカン大争闘委員が維持する雑誌「第三千年紀」の編集者オットー・シュミットは、

「第三千年紀は、原則として十五年での節目に開かれるカトリック最大の宗教行事だ。一三〇〇年の公行行事となり、今回で二十回目となる」

「しかし、今回の聖年は、第三千年紀を迎える特別な年で、われわれは、大争闘と結び

第三千年紀 他の一神教と和解目標

一九九五年から準備を進めていきます

旧約聖書の時代には、すでに聖年の伝統があり、すべての奴隷が解放され、負債が免除された一言でいえば、和解と和解を象徴する年だ

大争闘は九九年のクリスマスに、法王がサン・エトロワ寺院など四大聖堂の聖門を開くことから始まり、少なくとも一年間は続く

法王はすでに九七年をイエスキリスト、九八年を聖霊、九九年を父なる神の年と位置づけ、大争闘への準備を説いた

この千年間の教会の誤りを悔い改め、自らを清めて第三千年紀に入る、という教えた

その最終目標として法王は、他の一神教との和解を呼びかけた

カトリックと分かれた正教、プロテスタントとの対話を復活し、西暦二〇〇〇年にユダヤ、イスラムの指導者と共に「三ノ目」に出る、という計画だ

「われわれは建築家フロアーズはするが、押しつけ(インザイ)はしない、他の宗教と接触し、出会い、対話を求める。大争闘は世界規模の動きになるだろう」

諸宗教との対話を進める「三ノ目」出身の「三ノ目」秘書長は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

「三ノ目」は、

20世紀からの伝言 第2部

ハチカンとはこれまで二〇〇〇年の和解に向けて、管々と布石を打ってきた。八六年にアノノで始まった世界の宗教指導者による「平和と祈り」の集会、八九年のゴルハチ・ヨフ会議に始まるローマ、東欧との関係改善、九三年のイスラエルとの国交樹立

法王は即位以来、八十三回の旅で、百七十九カ国を訪れた。世界人口の三分の一はキリスト教徒といわれる。単一組織としては最大のカトリックはその半分以上を占める。こうしたハチカンの長期戦略は、目に見えないところで精神世界の潮流に影響を与えつつはいる

今世紀、ハチカンは一度の変革を体験した。と百セウ、ヒタウ大司教はいう

最初は一九九九年のラチノ条約「政治権力がなければ教会の自由はない」という従来の考えを捨て、「モラルの国家」として生き延びる道を模索した

とだ。もう一つは「世界は開かれた教会」を目標とするハチカン公會議の開催。その開催を推し進めたのが、法王ヨハネ・パウロ二世だった

法王は即位後、日、師と仰ぐベニン・スキール・根拠地どうい

われたという

「神によって、あなたは教会を第三千年紀に導くべき定められている」

その人は来月、在位十周年を迎え、最後の仕上げに向かっている

分向、秀徳

ハチカン、われ

アドベント(再臨)への待望は大失望になり得る!

一つの誤った理解が弟子たちの希望をうち砕いた
一つの誤った解釈が初期の再臨信徒の希望をうち砕いた
最後の再臨信徒の希望をうち砕く誤りとは?

セブンスデー・アドベンチストの出番とは?

アドベントとは、出現、到来という意味で、キリスト教ではキリストの初臨また再臨に使われる言葉です。アドベンチストというと、初臨、再臨を待望する者たちという意味です。

二千年前の神の民、ユダヤ人はセブンスデー・アドベンチストでした。第七日目安息日を守り、メシヤの到来を待っていたからです。「世の終わり」になって、再臨運動が起こり、セブンスデー・アドベンチストと呼ばれる団体が現れました。これは、天が最後の選民に与えた名前です。私たちはこの運動、この名前に、いささかも疑いを持ってはならないはずです。

最近日本では、「セブンスデー・アドベンチスト教会」といっても、人々はキリスト教会として認識し得ないのではないかという理由で、看板を「SDA どこそこイエス・キリスト教会」という名前に変えた教会がほとんどです。しかし百年前、日本で最初に三天使の使命の宣布を始めた頃、人々は、今よりずっとキリスト教になじんでいなかったことでしょう。その中で私たちの先輩たちは「第七日目安息日再臨教団」という長ったらしい名前を掲げて、心から安息日の重要性を信じ、キリスト再臨の切迫を説き、伝道を展開してきました。「キリストの愛我らに迫れり」という強力な動機が推進力となって、自己犠牲のうちに使命に燃えて出ていったのです。今日の日本も、様々な教派が氾濫している始末です。同じキリスト教の名の下にあまりにも教派が多くあるので人々は混乱し、疑問を持ったり、あざ笑う者さえいます。キリスト教会は、そのことを恥じて悔いるかのように、エキュメニカル「教会一致運動」に非常に積極的になっています。そういう状況で、今さらどうして私たちは、「SDA どこそこイエス・キリスト教会」と特徴を希薄にする、単なるキリスト教の一派のような名

前を名乗るようになってしまったのでしょうか。

最近、わが教会でも、五島勉氏の「ノストラダムスの大予言」という本がよく取り上げられています。アドベンチスト・ライフ、1998年9月号と10月号でも触れています。最近、天沼教会の礼拝に出席したときにも、説教者がそのことに言及していました。この本は1998年7月に発売され、ベストセラーになっているそうです。その本の表紙の副題に「1999年、“恐怖の大王”の正体と最後の活路」とあります。この本を見たことのない読者のために、表紙のキャッチフレーズだけでも書いておきます。「迫りくる『1999年7月の月...』、ついに地球破局へのカウントダウン開始か?」「なぜ、人類は彼の“警告”に耳を貸さなかったのか!？」とあります。作家の高橋克彦氏の特別寄稿には次のように書かれています：

「いよいよ1999年が間近に迫っている。(中略) そんな矢先に五島さんがノストラダムスについての最終結論ともいえるべき本を書きあげたという話を耳にした。(中略) なにが書いてあったとしても、もはや動揺もなければ驚きもしないが、ノストラダムス・ミステリーの結末を見届けたい。そういう思いで読みはじめた。そして.... 私は涙をおさえることができなくなった。こんなことが本当に1999年に起きるのだろうか? 本当なら私はぜひともそれを見届けたい。それは私の人生の最大のクライマックスとなろう。変な言い方になるが、こういう解答を用意してくださった五島さんに感謝をしたい気分である。もちろんそれ以前に苦難の道は果てしなく続きそうだが、大いなる希望が先に待っている」

「恐怖の大王」とは一体何なのか、誰なのかを追求し、解釈してきた人々がたくさんいました。五島勉氏に、ある時、フランスの秘密グループから、その謎を知らせるからフランスに来いとの通告が来たそうです。それはノストラダムスが生きていた頃から存在する集団。ここまで読むと、もしかするとカトリックのイエズス会の仕業かという推測が私の脳裏を横切りました。彼は決められた日に決められた場所で彼らに会うことになりました。

「ついに一步、目的の教会の中へ踏み込んだ。中はほとんど真っ暗だった。しかしすかな灯火—たぶん豆ランプ式の淡い電灯—が何カ所かにともっていた。そのため、また間もなく目がほんの少し慣れたため、内部の様子がおぼろげながら分かってきた。...
その左右の壁には、それぞれ四カ所か五カ所、扉のない小部屋があり、聖母や聖人

の彫像などがまつられている。正面には、おそらく神父さんが祈りを捧げるための聖壇、その奥には遠くてよく分からないが、イエス・キリストらしい彫像がある」

やはりカトリック教会でした。声をかけられてその方を見ると二つの黒い人影。修道士でした。「空から来る恐怖の大王」とは何か、誰のことかがついに明かされたというのです。それは「我らが主イエス・キリストの二度目の来臨すなわち再臨のことです」という返事が戻ってきたというのです。それは 1999 年 7 の月だそうです：

「それまでももちろん、わたしはいろんな予言書に接し、衝撃的な言葉に何度も出会ってはいる。…驚愕したり震え上がったことも何度かある。しかし、今、ビノ師が指さしたその単語の激しい衝撃は、そういう今までの驚きや恐怖とは、まったく種類が違うものだった」。

それは何だったのでしょうか。フランス語で「ラドヴァン」英語なら「アドヴァント (advent)ーイエス・キリストの再臨」という言葉だったのだそうです。そして五島勉氏は、次のように勧めています：

「いつか渋谷神宮前へ行くとき、『セブンスデー・アドベンチスト』という名前の教会を探してみてください」と。

白石理事長は「今こそ伝道の好機」と訴えています (アドベンチスト・ライフ 98-10)。島田前東教区長も次のようにコメントしています：

「今や再臨を説かない正統キリスト教会はありません。あの『ノストラダムスの大予言』も実はキリスト再臨の預言であり、再臨について確認したければ渋谷神宮前のセブンスデー・アドベンチスト教会へ、と紹介してくれた五島勉氏の最新の著書については何と云うべきでしょうか。正しい情報が求められています。いつの間にか環境が整えられて、いよいよ私たちセブンスデー・アドベンチストの出番がやってきたように感じられます。終わりに近づくほど、キリスト教会の状況も社会の状況も加速度的に変わっていきます。その変化に対応するためにも早急に準備をし、私たちの使命実現に立ち上がりたいものです。教会には時代を超えた普遍的な使命がありますが、私たちセブンスデー・アドベンチスト教会にはまたこの終わりの時代に立てられた教会としての独自の使命があります。それは、キリストの御再臨に備えて、十字架のあがないと和解の業の完成を目指す使命です。キリストにあがなわれ、神と和解した者の神との正しい関係、あるべき姿を回復するのが私たちの教会の使命です」(アドベンチスト・ライフ 9-20)。

セブンスデー・アドベンチストの意味を明確にする時

確かにセブンスデー・アドベンチストの出番の時だと思います。百五十年間もアドベント「再臨」使命を伝えることは SDA の特許でした。そのために教会の名前もアドベンチストと付けられました。地上歴史の最後のクライマックスはどうなるかという正確な情報を人々に告げ知らせる特別な使命が与えられました。地上歴史最初の創造主の力を人々に指し示す、セブンスデー「第七日目安息日」も最後の時代に特別な意味を持つ名前です。この二つが結合された教会はどこにもありません。単独の名前を持つ教会はいくつかあります。たとえば、セブンスデー・バプテストとか、ファーストデー・アドベンチスト(第一日再臨教団)とか、アドベンチスト・クリスチャンとか…。しかし、セブンスデー(第七日目安息日)とアドベンチスト(キリストの再臨)というこの二つの永遠の真理が結合された我が教会の名前は、天から与えられたものです。

この二つとも、天の聖所から生まれた名前です。再臨信徒は 1844 年にキリストの再臨(アドベント)を期待し、大失望して後に天の至聖所に目を向けた。そしてキリストの再臨を迎えさせる特別な準備の働き—最後のあがないの働き、つまり清めの完成、恵みのみ業の完成(教役者への証 506)の意味を含む安息日(セブンスデー)を守る民という意味で、セブンスデー・アドベンチストという名前が与えられたのです。

それを今さら「SDA どこそこイエス・キリスト教会」とすべきではないと思います。ただ、省略した SDA という頭文字だけを掲げて、初めての人には意味も分からないし、サンデー・アドベンチストとはき違えられる可能性もないではありません。

エレン・G・ホワイトは次のように言っています：

「私は名前をつけている神の残りの民に関して見せられた…。我々の告白することと一致し、我々の信仰を表し、そして我々の特殊な民を特徴づけている名前は他にない。セブンスデー・アドベンチストという名前は、プロテスタント世界に絶え間ない譴責となる。……セブンスデー・アドベンチストという名前は、我々の信仰の特徴を前面に持ち出し、尋ねる人々に悟らせるであろう」
1BIO438 (Ellen G. White: The Early Years Volume 1 - 1827-1862)。

「我々はセブンスデー・アドベンチストである。我々はその名を恥じているのだろうか？ 我々は否と答える。決してそんなことはない！それは主が我々に与えた名前である」(LETTER 110,1902)。

「我々の告白と一致し、我々の信仰を表し、そして特別な民を特徴づける名前以外に我々が取るべき名前はない。セブンスデー・アドベンチストという名前はプロテスタント世界に譴責として立っている。ここに神の礼拝者と獣を崇拝し、その刻印を受け取る者たちの間を区別する線がある。神の戒めと獣の強制との間に大争闘があるのである。龍が彼らに対して戦いを挑んでくるのは、聖徒たちが十戒のすべての戒めを守っているからである。もし彼らが標準を下げ、彼らの信仰の特殊性を捨てるなら、龍は安心するであろう。しかし、彼らがあえて標準を掲げ、ローマ法王制を崇拝しているプロテスタントの世界に対抗して旗を広げるなら、彼らは龍の怒りを引き起こすであろう」(1T 223)。

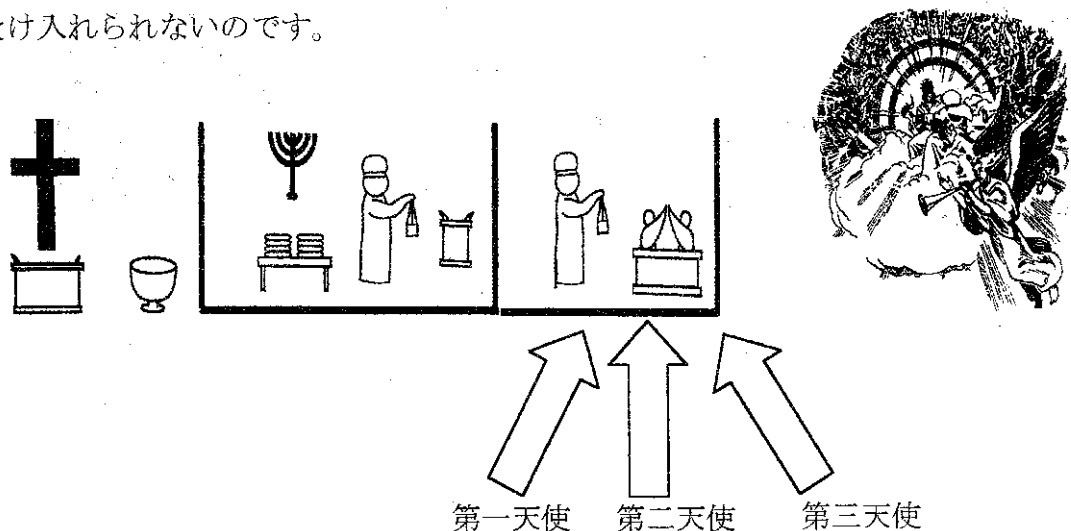
「人々は、セブンスデー・アドベンチストと週の第一日遵守者の間の相違をできるだけ目立たないようにするあらゆる手段を用いるであろう。セブンスデー・アドベンチストの名前の下で我々を特殊な民にする旗、あるいはサインを余り目立つようにすべきでない」と勧めている一団を私は見せられた。目立たせることは、我々の団体に成功を確保するための最善策ではないからだと言われ、彼らは主張した。しかし、我々の旗を引きずり下ろして、我々の信仰を恥じる時ではない。この特殊な旗は『ここに神の戒めを守り、イエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある』(欽定訳)という言葉に描写されているので、恩恵期間の終わるまで世界に伝えるべきものである。

働きが異なった場所においてますます進展すべきときに、人の愛顧を確保するために我々の信仰を覆い隠すことがあってはならない。真理が、滅びようとしている魂に届かなくてはならない。そして、もしそれが何らかの方法で隠されるなら、神のみ名が汚され、魂の血は我々の衣服につくであろう」(6 T144)。

「我々は、神の民を世から区別する、純粹で気高く神聖な原則を世に表すべきである。神の民は、第七日目の安息日を守らない人たちとの明確な違いをなくすようなことはせず、世が彼らをセブンスデー・アドベンチストとして認知し損なうことがないように、はっきりと安息日の遵守を打ち出すべきである」(EV233)。

再臨運動の初期頃、キリストの再臨使命は嘲笑の的でした。しかし、「今や再臨を説かない正統キリスト教会はありません」と言われるほどになりました。ノストラダムスでさえ、キリストの再臨を予言して、その信者がそれを期待しているとすると、セブンスデー・アドベンチストの再臨期待感とどう違うのでしょうか。

「今や再臨（アドベント）を説かない正統キリスト教会はありません」と言われていても、何百と存在するキリスト教会でキリストの再臨に人々を備えさせる特別な使命を託された、天が承認する教会は、セブンスデー・アドベンチスト以外に存在しないはずです。第一、第二、第三天使は、天の至聖所に人々の心を向けるのです。人類のために死なれ、復活され、昇天されたイエスは、今、天の至聖所というはっきりした場所で、はっきりした「最後の調査審判、最後のあがない」という働きをなさっておられます。このことを説くセブンスデー・アドベンチストは福音派キリスト教会には受け入れられないのです。



第一天使は「神のさばきの時はきた」と至聖所を指している。

第二天使は「バビロンは倒れた」「さあ花婿が来た、出てきて彼を迎えよ」と至聖所を指している。

※ ダニエル 8 : 14 の聖所を清めるためにキリストが至聖所に来ること、ダニエル 7 : 13 のキリストが日の老いたる者のもとに来ること、マラキ 3 : 2 のキリストが主の宮に来ること、マタイ 25 の花婿が婚宴の席に来ことはみな同じ出来事である。(大争闘下 142 参照)。

第三天使は「神の戒めを守り、イエスの信仰を守る聖徒の忍耐ここにあり（欽定訳）」と言って天の至聖所を指している。(初文 414～参照)。

「わたしは、第三天使の使命が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。信仰によって彼らが至聖所にはいるときに、彼らはイエスを見いだして、新たな希望と喜びを味わうのである」(初文 415)。

セブンスデー・アドベンチストはどこに希望と喜びと確信を見いだすのですか？
現在はどこにイエスを見いだすのですか？イエスを見失ったらクリスチャンはどうな

りますか？失望です！焦燥です！三日間イエスを探し歩いたマリヤのように。

これが完全な贖罪のステップ

1



十字架

初代教会
「見よ、世の罪を取り除く神の小羊！」

2



聖所

プロテスタント教会
「見よ、我らの唯一の仲保者！」

3



至聖所

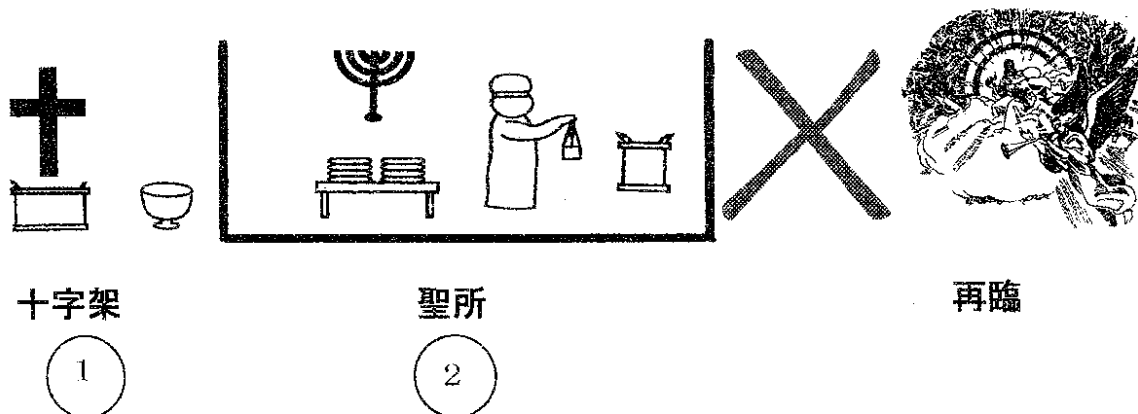
セブンスデー・アドベンチスト
「見よ、最後のあがないをなさる、我らの大祭司！」



再臨

「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちはその救を喜び楽しむ。」

これがセブンスデー・アドベンチストのバランスのとれた贖罪観。律法の一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになる。同じように贖罪の一つの点でも欠ければ、全体を拒むことになる。



セブンスデー・アドベンチストが世に提示する福音は、プロテスタント諸教会のそれとは違うはずです。セブンスデー・アドベンチストは、人々を再臨に備えさせる特別な、最後の使命を持っています。それは三天使の使命です。

第一天使も、第二天使も、第三天使も、厳粛な警告とすばらしい希望を伝えています。

第一天使は、神の裁きの時は来たことを告げています。裁きの時には、自分の功績にはいっさい頼らず、悔い改めと信仰によって自首する者だけが神に義とされるのです。「裁きの前に完全にならなければならない」というのは福音ではありません。また、「裁きなどない。自分は十字架を信じているから今の状態で救われる」と安心して、裁きの日、あがないの日の条件を果たさなければ、自分の功績に頼っていることになり、そのような人を神は義と認められないのです。一度信じたら、永遠に救われると説く「諸教会が、第一天使の使命を受けることを拒んだときに、彼らは、天からの光を拒否し、神の恵みを失った。彼らは、自分たち自身の力に頼った」(初文 390) のです。このように、第一天使は厳粛な警告と仲保者イエスという希望のメッセージを与えています。

第二天使も、バビロンは倒れたから(道徳的に)諸教会から出よとの警告と、自我からの完全な解放を告げる希望を提供しています。

第三天使の使命も、ローマ・カトリックとその陰謀、プロテスタント・アメリカの政教一致、日曜休業令の強制、良心を束縛する事件に対する警告と、「神の戒めを守り、イエスの信仰を守る聖徒の忍耐ここにあり」と言って、最後の執り成しのために働かれる、憐れみ深い大祭司イエスこそ我らの希望であることを人々に示すものです(初文 413～414を熟読していただきたい)。至聖所のこの働きにおいて「完全で十分な義認」が最終的に与えられるのです。「もろもろの罪が清められる」のです(レビ

16:30)。「罪なき状態」にされるのです(大争闘下 397、6BC1118)。深い悔い改め(完全な罪深さの認識と罪のはなはだしい邪悪さの認識—国下 195,196)と徹底した信仰によって(国下 196、大争闘下 217、雅歌 8:5)大祭司キリストにのみ頼る時に、「キリストの義というしみのない衣」「栄光の衣が着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることのない」「誘惑者の計略から、永遠に安全なもの」とされるのです。

何とすばらしい福音でしょうか。だから裁きは福音なのです！

繰り返します：

完全になってから裁きに出廷するという考えは、福音ではありません。それと同じほど危険な神学思想は、再臨の時、肉体が栄化されるその時に、罪が完全に取り除かれるという考えです。

「アンカー」誌が強調しているのは、セブンスデー・アドベンチストの原点、至聖所における最後の執り成しをしておられる大祭司、神の小羊イエスを見よ！ということです。バビロン諸教会が説くように、あがないはすべて十字架で終わったのではないのです。

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである」(大争闘下 222)。

「十字架を歌い、祈り、語ろう」というのは、十字架でキリストが死なれ、復活され、昇天され、天の聖所で仲保の働きを開始され、今、恩恵期間終了の前に「最後のあがない」をなさるイエスを高く掲げることなのです。

「そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。そこにおいて、我々は、贖罪の奥義について、もっとはつきりした理解を持つことができる」(大争闘下 222—223)。

いよいよセブンスデー・アドベンチストの出番ならば、そのことを明確に提示しなければならぬのではないのでしょうか。

大失望をもたらす誤った理解はないだろうか？

「各時代にわたって、地上で行われる神の働きには、どの大改革や宗教運動を見

ても、著しい共通性がある。神が人間を扱われる原則は、常に同じである。現代の重要な運動は、過去の運動と類似しており、昔の教会の経験は、我々の時代に対して大きな価値のある教訓を与えている」(大争闘下 35)。

なぜ、弟子たちは大失望を味わう結果になったのでしょうか？

「彼らは、キリストからゆだねられた使命を述べ伝えたのであるが、彼ら自身その意味を誤って理解していた」(大争闘下 38)。

その誤りとは何だったのでしょうか？

「彼らの宣言は、ダニエル書 9:25 に基づいていたが、彼らは、同じ章の次の聖句に、メシヤは断たれるとあるのを見なかった。彼らは、生まれたときから、地上王国の栄光を待望するようにしつけられていたので、預言の明細な点も、キリストの言葉も、理解できなかったのである」(同上)。

彼らはダニエル9章の70週のタイムラインに基づいてメッセージを伝えました。しかし、恵みの王国ではなく、罪からの解放でもなく、栄光の王国を待望したのです。彼らは当時のセブンスデー・アドベンチストでした。結果は大失望でした。弟子たちの失望は再臨信徒の失望よりもっと大きかったと言われています(同111参照)。

なぜ、再臨信徒は大失望したのでしょうか？

「ミラーと彼の仲間が伝えた使命は、70週を含んだダニエル書8:14の2300日の終結を告げるものであった。おのおのが伝えたことは、同じ大預言期間の異なった部分の成就に基づくものであった」(同45)。

彼らもあるタイムラインに基づいて、栄光の王国の時を定めたのでした。恵みの王国ではなく、罪からの解放でもなく、栄光の王国を待望したのです。再臨の前に、罪から全く清められるのではなく、再臨の時に、この地上また教会が清められることを期待したのでした。

「両方とも、一般の誤りを信じ、あるいはそれに固執したことが、真理に対して心を盲目にした。両者とも、神が伝えることを望まれた使命を布告して神のみ心を行なったが、その使命を誤って解釈して、失望を味わった」(同47)。

しかし、大失望の経験は、神の摂理によって許されたことでありました。

「この弟子たちは、その前途に横たわる働きをなすために、なんという準備を受けたことであろうか。彼らは、経験し得る最も深刻な試練を越えて、人間的見地からは全く敗北と思われた時に、神のみ言葉が勝利のうちに成し遂げられたのを見たのである」(同43)。

では、再臨運動の最後においてはどうかでしょうか。再び大失望を味わうことになるのでしょうか？

最後の教会も同じような経験をすることでしょう。私たちも恵みの王国の完成ではなく、罪からの解放でもなく、栄光の王国だけを期待しているのであれば、同様の失望に至ることでしょう。至聖所における最後のあがないによって罪なき品性が与えられるという事を理解しないで、肉体が栄化される再臨の時に、罪が完全に取り除かれるのだとするならば、弟子たちや初期の再臨信徒と同じです。

至聖所のイエスを見失って、ただイエスの栄光の再臨を待ち望んでいるだけだとしたら、真のセブンスデー・アドベンチストではないのです。ラオデキヤ教会が、発展に発展を増し加え、全世界の注目の的になり、伝道が栄光のうちに成功することはあり得ません。大失望と屈辱こそ、み業完成のための最高の準備となるのです。初代文集437～441をお読み下さい。生ける者の裁き、獣の刻印によるSDAの大いなる震いの後に、神はご自身を現されるのです(詩篇119:126参照)。

もしこのことを理解しないならば、「最も強力な、ほとんど圧倒的な惑わし」に選民セブンスデー・アドベンチストも陥るでしょう。クリスチャンが再臨のキリストを、ニューエイジ運動がマイトレーヤという救世主を、ユダヤ人がメシヤを、仏教徒が五番目の仏陀を、回教徒がイمام・マーデイを、ヒンズー教徒がクリシュナを待望しているとき、その期待に応じてサタンはどんなことをするでしょうか。

今や全世界にわたって、地上歴史のクライマックスとしてメシヤのアドベント(来臨)を待ち望んでいる宗教団体があります。ただ名前が違うだけで、みな同じ救世主を待望しているというのです。

「そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。にせキリストたちや、にせ預言者た

定されるので、先に恩恵期間が閉ざされる。残り少ない恩恵期間に我々は頭脳のコンピュータから罪、「品性の欠点」を除去していただくために、心を深く探索するという作業に入らなければならない（大争闘下 224 参照）。コンピュータ以上に、仲保者イエスは、一つ一つの罪を検索して「除去しますか」と聞かれる。主は決して人の意志を強制なさない。我々の同意を求めて、やさしく訴え続けられる。今日、聖霊が我々の罪や欠点を示して下さるのは、すばらしい新しい心にバージョンアップするためである。天の愛の律法を心に完全に永久にインストールする（取り付ける、装置する）ためである。罪が一つでも残ったままだと、神の律法というアプリケーションをインストールすることができない。

「わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」（ヘブル 10:16）。

我々の心から罪が除去され、後の雨（仕上げの聖霊）によって額に（心に）神の律法が印されるとき（イザヤ 8:17 欽定訳）、我々はキリストのみ像を完全に反映する。

「真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなるように、象徴では罪は荒野に追いやられ、会衆から永遠に切り離された」（あけぼの上 423）。

「彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは罪を思い出すことができない」（大争闘下 393）。

「彼らは自分の生涯中に善をほとんど見ることができないが、どんな特定の罪も思い出すことはできない。彼らの罪は前もってさばかれ、ゆるされ、彼らの罪は忘却の彼方へと取り去られてしまった」（3SG135）。

神はヤコブの悩みの時に対応できるように、すばらしい罪の除去という福音を用意しておられることを感謝したい。大いなる悩みの時に「罪の思い出がよみがえってくる」ようなことになったら、完全に打ちのめされてしまうであろう。

紀元二千年コンピュータ問題よりも、もっと重要な問題は、我々の心のコンピュータの準備、品性完成の問題ではないだろうか。

「この日に...あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」

レビ 16:30

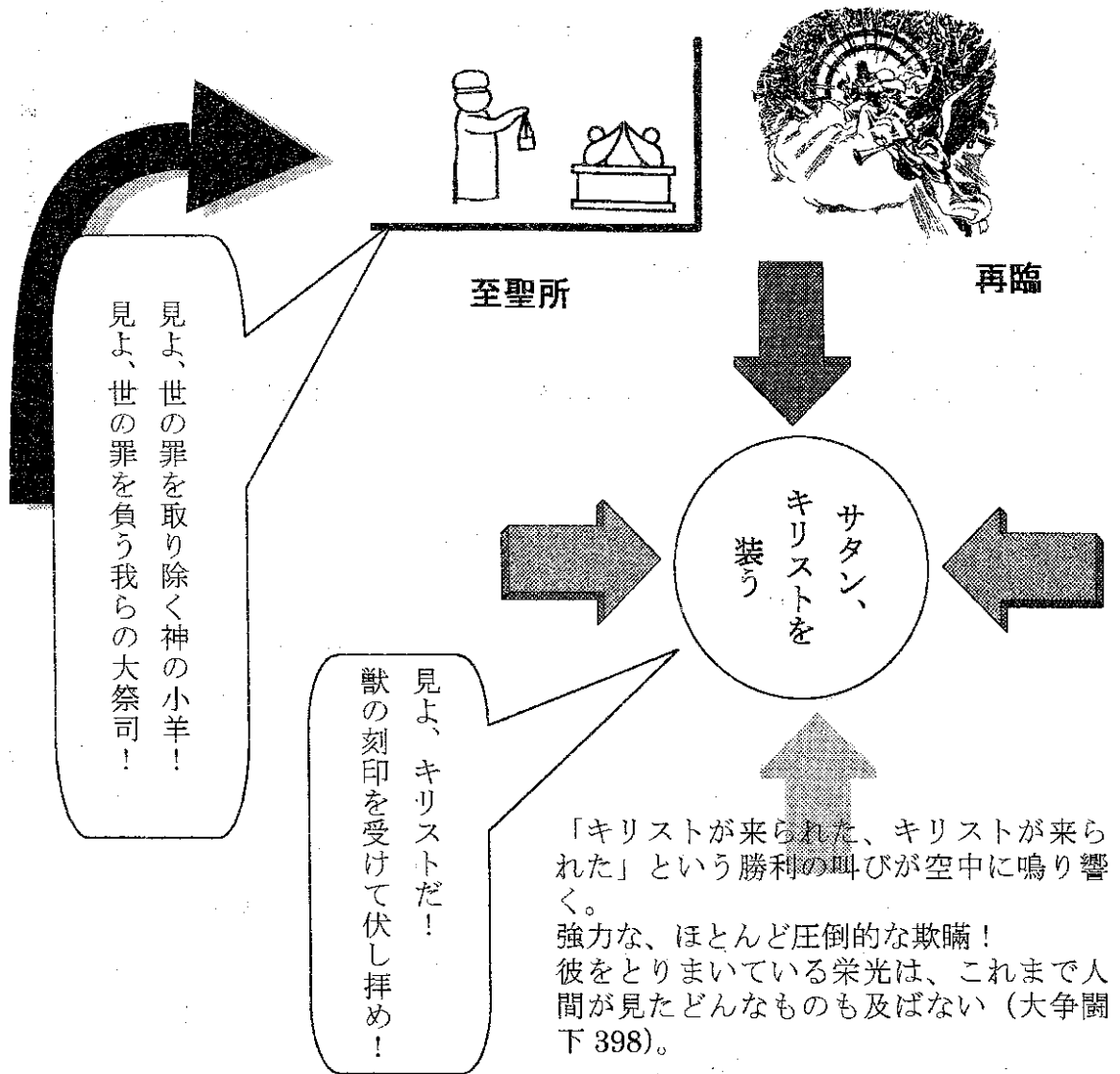
神殿の至聖所に向かって、現代に必要な信仰を働かせている者だけが、この大いなる欺瞞から救われるのです。

厳粛なことは、セブンスデー・アドベンチストで、第三天使の使命を信じていると告白する多くの者が、この強力な、ほとんど圧倒的な惑わしに陥ってしまうということです。

「あらしが追って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者(大部分)が、その信仰(立場)を棄てて反対の側に加わる」(同378)。

「しかし、神の民（現在のラオデキヤとしてのセブンスデー・アドベンチストではない。現状の教会は大いなる震いかけられる。神の民とは、大いなる叫びによって全世界から集められる完成された教会のことで、大部分はバビロンから出てくる者たちによって構成される）は欺かれない。この偽キリストの教えは聖書と一致していない。彼の祝福は、獣とその像を拝む者、すなわち、神のまじりけのない怒りがその上に注がれると聖書が断言しているその人々に対して、宣言されているからである。さらに、サタンにはキリストの来臨のありさまをまねることは許されない」(大争闘下399)。

「もし我々が現代の真理にしっかりと目を置き、魂の錨として我々の希望を第二の幕の内に下ろすならば、様々な偽りの教理の風も誤りも我々を動かすことはできない。今日の興奮も、偽りの改革も我々を動かすことはできない。なぜなら、1844年に家の主人は立ち上がり、天の幕屋の第一の部屋の戸を閉じられたのである。彼らは『その群れと行』って、『主を求めても、主に会うことはない。主は彼らから離れ去られた（第二の幕の内に）』(ホセア5:6)と、今我々は確かに思うのである」(The Present Truth, 1850, p64)。



このポイントを理解しなければ、セブンスデー・アドベンチストとしての立場を見失ってしまう！（大争闘下222）。

- ①今、セブンスデー・アドベンチスト教会に籍を置きながら、セブンスデー・アドベンチストでなければならない理由を知らない信者が多くいる。
- ②SDAの立場を見失って、教会から出ていく現象が多くなっている。
- ③SDAの立場を理解しないままにいる人は、いつ出ていくのだろうか？ 最後のデストー日曜休業令の時には、大部分の者がSDAの立場を捨ててしまう。（大争闘下378参照）。「多くの星（指導者）」も震われる。（5T75～84を参照—和文プリントあり）。
- ④最後には、バビロンから出た多くの者が、この重要な真理を「数ヶ月で学び」（初144）、セブンスデー・アドベンチストに加わり兵卒として立つ。

紀元二千年コンピュータ問題



と クリスチャン品性の完成

世紀末に世界大破局が起こることを予言する人が多く出ている。

工学博士の深野一幸氏は次のように言っている：

「二十世紀末前後に世界大破局が起こるとすれば、具体的に何が、いつ起こって世界が破局するのかということが多くの人々の関心を集めてきた。何が起こるかに關しては、『地殻大變動』『極移動』『彗星激突』『核戦争』などさまざまな説がささやかれている。一方、いつ起こるかについても『1999年』『2000年』『2005年』など様々な説がいわれている。私は、二十世紀末前後に世界大破局が起こることは間違いないと確信はしていたが、いつ、そして何が起こって世界が破局するのかはまだわかっていなかった。ところが最近、コンピュータ2000年問題の存在を知り、自分で多くの情報を集めて調べた結果、世界大破局が、いつ、どんな形で起こるかが明確に分かってきた」(2000年大破局、序論)

多くの専門家によれば、2000年1月1日、真夜中過ぎから地球は世界的に大惨事に直面すると言う。Y2Kと呼ばれる。Yというのは“year”年のことで、2Kは2Killoで2000のことであり、Y2Kは2000年という意味である。それを簡単に「2000年問題」と言っている。

コンピュータ2000年問題というのは、数年前までに作られたコンピュータが、西暦年情報を下二桁で処理するため、2000年になると、下二桁「00」を1900年と判断し、誤って作動したり停止したりしてしまう現象のことである。

現代社会はあらゆるものがコンピュータに依存している。都市給水、浄水システム、電気供給、交通信号、鉄道シグナル、クレジットカードを含めすべての銀行業務取引、電話、ファックス、インターネット、電子メール、郵便の分類、航空管制、輸送予約システム、船舶—航空のナビゲーションシステム、工場、オフィスシステム、経理処理、新聞印刷、防衛システム、医療のテストとモニタリング装置、テレビ、印

刷、天気予報、その他たくさんの毎日の活動がコンピュータに依存している。

多くの専門家は コンピュータがY2Kのために修正されないならば、コンピュータによる大惨事が起きると言うのである。この大惨事防止対策に各国は全力を尽くしているが、世界で三億台以上も普及している現在、完全には対応できないというのが現状である。30%のコンピュータが誤作動したり、停止したりするとどうなるだろうか？

深野博士は次のようなことが起こると要約している：

- コンピュータ 2000 年問題で、2000 年 1 月から社会的、経済的に大混乱が起こる。
銀行倒産、株価暴落、企業倒産が続出し、失業者も激増する。それに世界の大都市数カ所に大地震が同時に起こるようなことがあれば、さらに深刻になる。
石油や天然ガスの産出量が大幅に減り、航行不能になるタンカーが続出することから、世界的にエネルギーが不足し、エネルギー危機になる。この打撃を一番受けるのが日本である。流通や運輸におけるコンピュータトラブルにより、食品や食料の国内及び国家間の輸送が不自由になり世界的な食糧危機が起こる。人々が備蓄に走ったり物流が悪くなる結果、物不足の状態になり世界的にインフレが起こる。
- そうすると、社会の分業体制の様々なところで破綻が起こり、生活していけなくなる人が続出する。経済恐慌が起こり、これが長期化して資本主義経済を崩壊させる。
- 資本主義の崩壊と同時に現代文明も崩壊する。
- 現代文明の崩壊後は、宇宙文明というすばらしい文明が実現する。

「資本主義経済の崩壊や現代文明の崩壊は、天変地異など、コンピュータ 2000 年問題とは別の原因で起こるかもしれない。この場合、コンピュータ 2000 年問題は、資本主義経済の崩壊や現代文明の崩壊を確実にする促進剤としての役割を果たすだろう」(同 24)。

ローマは、あるキャタスロフィー（大惨事）をきっかけに世界を支配する計画だという。世界一の資産家、ローマ法王庁が待っている大惨事がこういう現代的な方法で誘発され得ることが分かって、私もますますコンピュータ問題に興味を持つようになった。世界支配を陰謀する者は、意図的に世界の国々を赤字にすることを企んでいると宇野正美氏は言う。沖縄に、「ムヌクイシドリ、ワーウスー」という諺がある。つまり「食物をくれる人が私の主人だ」というのである。

このような社会的、経済的大混乱が起こると、人々は強制的な政府行動しか解決の道はないとして、平穏無事な時代には考えられないことも支持するようになるのである

う。これは、まさに1930年代の世界大恐慌時にドイツで起こったことである。その時救済者として登場したのヒットラーであった。このような事態が世界的に起こるとき、人々は救済者として誰を支持するだろうか。世界一の資産家、「平和の使者」ローマ法王である。世界統一政府は、統制に服しない今日の選民、セブンスデー・アドベンチストが大惨事の原因だとして迫害行動に出るであろう。(大争闘下 353 参照)。

今「マリヤの世界的出現」という現象が、多くの人々の心を魅了している。カトリックの司教五万五千人がその運動に参加しているという。「マリヤ」は大惨事がまもなく起こることを警告している。これらの神の怒りから逃れるために、聖母マリヤの保護に頼るようという。これは永遠の福音である第三天使の使命をまねた偽りのメッセージなのである。



深野博士の結論は聖書的ではないが、彼が言う新しい宇宙文明は、聖書の預言によると、まさに「人手によらず切り出された石」が現代文明を破壊して、神の永遠の王国を実現することなのである。ローマはその前に自ら「新世界秩序」を構築しようとするが、深野博士も言っているように“ローマ法王庁が終焉する”(同 269 参照)。

紀元 2000 年問題が日曜休業令と密接に関係してくることは十分考えられる。大災害の続出、経済破綻、道德退廃は大混乱をもたらす。まずアメリカやヨーロッパで日曜遵守の運動が急に表に出てくるであろう。かつてみんなが日曜日に教会に行って礼拝していた時には道德的標準も高く、勤勉に働いて繁栄したものだとして、昔に戻ろうとする気運が高まる。「神の恩寵とこの世における繁栄の回復」を叫んで大衆も為政者も日曜休業令を要求する。(同 353)。

主の僕、エレン・G・ホワイトは日曜休業令が立ったなら、世の終わりが近いことを知りなさいと言っておられる。

日曜休業令は、神の民の運命が永遠に決定される事件である (7BC976 参照)。その時から天においては生ける者の裁きに移る。まず、神の民から裁かれる。我々はその時のために準備すべきことがあるのだろうか。コンピュータ界は紀元 2000 年問題に対応できるように急ピッチで備えている。我々は永遠の運命を決定する日曜休業令に、また天の聖所でのイエスの仲保の働きが止んで、この地上にかつてなかったほどの大

艱難、大災害が降り注がれる時に備えて何をすればいいのだろうか。

人間の頭脳は、どんなコンピュータよりもすばらしいもので、神の被造物の中で最高の傑作である。その頭脳には知的な働き、道徳的な働きがある。品性は「思想と感情で構成される」。我々の頭脳も、コンピュータのように、すべて見たもの聞いたものが記録される。罪の記録もある。これが「品性の欠点」である。

キリストが大祭司として天の至聖所で執り成しの働きをしておられるのは、我々の品性から罪を除去して、完全なものとし、キリストの再臨を迎えさせるためである。

「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」(エペソ 5:27)。

「再臨に備えて贖いの最後の働き(罪の除去)をするために、天の聖所の至聖所に入られた」(大争闘下 137)。

コンピュータにはファイルー文書が次々記録保存される。いっぱいになると保存するところがなくなり、「容量が足りません」とメッセージが出てくるので、時々いらないファイルは削除しなければならない。また、ある時には、知らない間に「バグ」(虫)が入ってきて、そのためにコンピュータがうまく作動しなくなることがある。全く停止するときもある。だから、時々ウイルスの処理もしなければならない。

記録を削除するときに、コンピュータは、「本当にこの文書ファイルを削除していいですか」と念を入れて聞いてくる。親切なものである。「はい」と同意してはじめて削除される。

我々の心の記録、「品性の欠点」も除去されなければならない。

「天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。....この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである」(大争闘下 141)。

再臨を迎える準備ばかりか、その前の大いなる悩みにも準備ができていなければならない(大争闘下 396, 397 参照)。

迫り来る大危機、大艱難に備えるのは今である。「間もなく—その時がどれほどすみやかに来るかは誰も知らないが(英文)—生きている人々の番になる」(大争闘下 224)。日曜休業令が立つと、セブンスデー・アドベンチストが先に裁かれ、永遠の運命が決

定されるので、先に恩恵期間が閉ざされる。残り少ない恩恵期間に我々は頭脳のコンピュータから罪、「品性の欠点」を除去していただくために、心を深く探索するという作業に入らなければならない（大争闘下 224 参照）。コンピュータ以上に、仲保者イエスは、一つ一つの罪を検索して「除去しますか」と聞かれる。主は決して人の意志を強制なさない。我々の同意を求めて、やさしく訴え続けられる。今日、聖霊が我々の罪や欠点を示して下さるのは、すばらしい新しい心にバージョンアップするためである。天の愛の律法を心に完全に永久にインストールする（取り付ける、装置する）ためである。罪が一つでも残ったままだと、神の律法というアプリケーションをインストールすることができない。

「わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」（ヘブル 10:16）。

我々の心から罪が除去され、後の雨（仕上げの聖霊）によって額に（心に）神の律法が印されるとき（イザヤ 8:17 欽定訳）、我々はキリストのみ像を完全に反映する。

「真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなるように、象徴では罪は荒野に追いやられ、会衆から永遠に切り離された」（あけぼの上 423）。

「彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは罪を思い出すことができない」（大争闘下 393）。

「彼らは自分の生涯中に善をほとんど見ることができないが、どんな特定の罪も思い出すことはできない。彼らの罪は前もってさばかれ、ゆるされ、彼らの罪は忘却の彼方へと取り去られてしまった」（3SG135）。

神はヤコブの悩みの時に対応できるように、すばらしい罪の除去という福音を用意しておられることを感謝したい。大いなる悩みの時に「罪の思い出がよみがえってくる」ようなことになったら、完全に打ちのめされてしまうであろう。

紀元二千年コンピュータ問題よりも、もっと重要な問題は、我々の心のコンピュータの準備、品性完成の問題ではないだろうか。

「この日に...あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」

レビ 16:30

法王、日曜休業令のための 舞台装置をする！

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世は、カトリック教徒に対し、日曜日を礼拝のために聖別すべきであるという厳しい警告を出している。

これは本当に異例の動きであり…、ローマ法王が公表した最も強い言葉であるように思われる。彼は「十戒の第三条に服従することによって、日曜日を神聖なものとしなければならない。とりわけ、神聖なミサに参加することによってそうしなければならない」と訴えている。

(※ローマ・カトリックは、十戒の第二条を削除したので、第四条を第三条とした)。



The Pope with Dr. Ratzinger's declaration of 'omnibus'.
© The Pope's Secretariat - May 1983

ローマ法王は続いてその書簡で、「違反者は異端者として罰せられるべきである」と表明したことを、ザ・デトロイト・ニューズ—1998年7月7日—は報じている。

¶

いよいよ法王教の本性を現すか！

ローマ法王は、近年「自由、平等、博愛、平和、人権擁護」を説いて全世界を魅了してきた。時の人、平和の使者と讃えられるようになり、世界の問題解決のキーマンとなってきた矢先、このような異例な発表をした。セブンスデー・アドベンチストには

重要な意味を持つものとして受け取られなければならない。

ローマは決して変わらないのだということを、しかと肝に銘じておかなければならない。

「人類の敵がその目的を達成するために着々と働き続けているのに、人々は『寛大』という叫びによって、サタンの策略に目をくらまされている」(大争闘下 265)。

カトリックのオコンナー司教は次のように言っている:

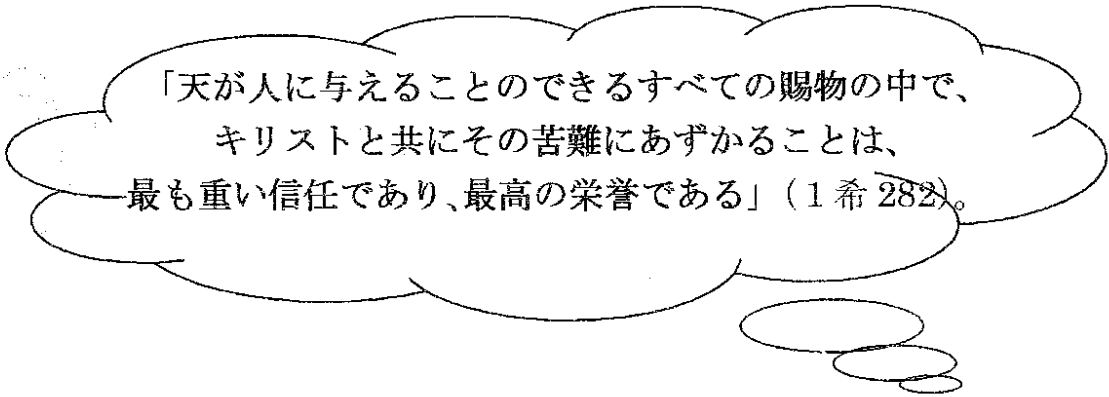
「カトリックの世界に危険を及ぼすことなく反対政策を実施できるようになるまで、信教の自由をがまんしているにすぎない」(大争闘下 320)。

近い将来(もう推測ではなく、さらに確実な預言によって見えてきた)、ローマが手を下す(一撃をくらわす)時が来る。有利な立場を獲得するまでは、どんなことでも利用する教会なのである。十六世紀にカトリック教徒がフランスの新教徒を虐殺した聖バーソロミュー事件への謝罪、ナチスによるユダヤ人ホロコーストを黙認した過ちの謝罪も、自由、平等、博愛、平和、人権擁護の叫びも、至上権獲得までの演出なのである。

「自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるために、教会は、ひそかに、そして怪しまれないように、勢力をのぼしつつある。この教会が何よりも望むものは、有利な立場である。そしてこれはすでに教会に与えられつつある」(大争闘下 341)。

彼らは忍耐強く「時機を待って」きた(大争闘下 339)。第七日目安息日を守る者たちに「一撃をくらわす」時が来ようとしている。

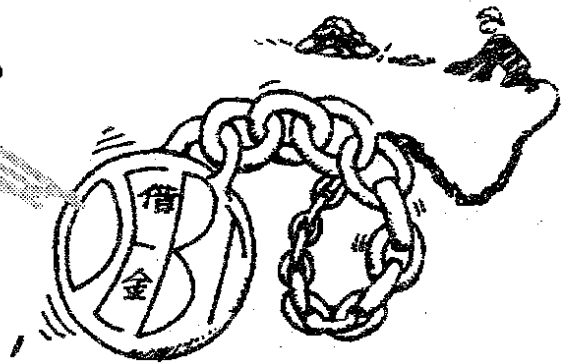
我々は、ペテロのように、喜んで主のために窮乏や苦難、迫害や死を受ける準備ができているだろうか?



「天が人に与えることのできるすべての賜物の中で、キリストと共にその苦難にあずかることは、最も重い信任であり、最高の榮譽である」(1 希 282)。

あゝ病人村

J. フランクリン



経済危機が懸念されている今日、人々は何を予感しているだろうか？ 私たちにできることはあるのか？ 神はそれについて、何か勧告しておられるのか？ 事態は更に悪化するのか？ 前回の恐慌はひどいものであった。今度も同じような事が起こるのだろうか？ あるいはもっとひどいものになるのだろうか？ 1929 年から 1936 年、人々はスーパの配給をもらうために至るところで行列を作り、失業率は 25 パーセントにまで上り、農場は荒れ廃れ、銀行はつぶれていった。ほとんどの人が、借金によってすべてを失った。1920 年代前半、既に専門家たちは、経済恐慌という形で起こる危機的状況を予測していたのである。

最近の研究において、筆者はニコライ・コンドラチェフというロシアの経済学者が、経済学の光に照らして歴史を研究していたことを見出した。世界の経済的困難は、45－60 年の典型的周期で繰り返されている。この周期によると、不況の前に、ある抑制された物価上昇(インフレ)が起こることになっている。この事は、過去何百年もの歴史によって正確な予知方法であることが証明されている。更に前回の恐慌時と対比すると、現在の経済状態は、前回のものに信じられないほど類似していることが分かった。

1920 年代に生存していた人は憶えていると思うが、その頃は世間が好景気に沸いていた。すべてが順調にいており、公定歩合はこれまでになかった程高く(6%)、国民所得も過去最高を記録した。今日の物価は無論それ以上であり、歴史上、今日程繁栄の極みに達した時代はない。

本題に入る前に、経済尺度をいくつか挙げることにする。その後、これらを霊的に適用していくことにする；

- ★企業はどんどん倒産している。
- ★消費者が月賦で購入する量は記録的。
- ★欧州経済の衰退。
- ★50%以上のアメリカ人は、その収入源を何らかの形で政府に依存している。

★自己破産の増加。

★ほとんどの人が、食料品店に全く依存している(1930 年には、人口の 40%が農業で生計を立てていたが、現在はたったの 4%)。

★アメリカ・ドルの下落：今では 1945 年当時の 4 分の 1 以下の価値しかない。

★銀行の倒産。

「貧民の状態を熱心に考慮し、彼らを救済するための手段を見出そうとしている心の広い人たちがいる。神の一般的祝福を確保し、神が人間に意図された生活を、失業者やホームレスの人たちに送らせるには、どのような手助けをすればよいのか？これが、多くの人々がその答えを求めて躍起になっている質問である。ところが、教育者や政治家の間でも、社会の現状を引き起こしている原因について考える人は多くいない。政府の手綱を握っている者たちは、貧困と増加する犯罪の問題を解決することができない。彼らは、より安定した基礎の上で商売を機能させるために、無駄な努力を払っている」(MH183)。

自分たちが無駄な努力を払っているということを悟るのは、容易でないかもしれない。では私たちは、自分たちの家や土地、貯金について何をすべきなのだろうか？主によって、次のような勧告が与えられていることに感謝したい。

「あなたがたの財産を銀行に預けたり、または家や土地に投資するよりは、そこ（主の働き）に預ける方がはるかに安全である」(CS41)。

「自分の持ち物を売って、そのお金を主の働きのために用いるべき時を、どうやって知ることができるのか？」とあなたは尋ねるかもしれない。初めに、靈感によって書かれた次の勧告を考慮していただきたい。

「もし彼らが、財産を祭壇の上に置いて、なすべき務めについて熱心に神に祈り求めるならば、神はこれらのものをいつ処理すべきかを教えて下さる。そうすれば、彼らは悩みの時に自由になり、負担となる邪魔物がなくなる」(初文 128)。

人間が提供し得る経済予知は、誤る可能性がある。けれども、コンドラチェフ博士の周期と時代の経済尺度を、神の預言と連結させると、私たちは着実に経済的多難の時代に向かっていることが明らかになってくる。私たちは、教会としても悩みの時に向かっており、そのための備えをする必要がある。

靈感によって、経済恐慌を早める事件が示されている：

「地価の急騰がこの国を呪っている。多額の値で購入された土地代が、ローンで

支払われている。…家を建てるためのお金が更に必要となり、大きく口を開けた利子が、すべての利益を飲み干してしまう。負債が蓄積され、銀行が倒産すると、抵当の買い戻し権が奪われてしまう。何万という人々が失業し、家族は些細な物までも失ってしまう。彼らは借金に借金を重ね、自分たちの財産を手放さなければならなくなり、あげくの果てに、無一文で追い出されるのである。借金して購入したか、負債を負ったまま相続した農地に、多額のお金と労力がつぎ込まれる。居住者は、真の所有者になる日を望み見て暮らしている。国中の銀行が倒産しなければ、それは実現したかもしれない」(FE317-8)。

未来に備えるべき時に、もし私たち自身が、あらゆる経済的負債から解放されていなければ、経済危機にあつて教会の働きを支えることはできないことになる。更に付け加えると、私たちが負債を抱えていると、深刻な霊的麻痺状態に陥ることになるのである。

次のような聖書の言葉がある：「あなたがたは多くまいても、取り入れは少なく、食べても、飽きることはない。飲んでも、満たされない。着ても、暖まらない。賃金を得ても、これを破れた袋に入れていたようなものである」(ハガイ 1:6)。

今日の私たちの経済状態を表してはいないだろうか。袋には穴が多くて、収入を手元に留めることができない！

日曜休業令と恐慌

日曜休業令(世俗の繁栄を回復するための試みとして、民衆によって要求される法律)に関する引用文はいくつもある。「神の民が、神の恩恵と経済的な繁栄の回復を邪魔している」と世の中の人々は考えるようになる(大争闘下 353 参照——但し日本語には、回復という言葉が抜けている)。それは何を意味するのか？日曜休業令の直前に一般大衆が、世俗の繁栄を失ってしまうということである。日曜休業令が既に迫っている時にあつて、大恐慌はどれ程間近に迫っているだろうか？

神はその民を世の混乱から守って下さるとすれば、彼らを経済的破綻からも守る策を講じておられる。それらの災難が遅れるよう祈るものである。神は憐れみの内に、私たちの用意ができていないのをご覧になる。しかし愛する友人方、神がいつまでも待たれることはない。備えをするために、私たちにできることはあるのか？嵐は吹き始めているのである。

先の大恐慌における教会

1979年9月13日のレビュー誌に「銀行が閉鎖された日、用意しておられた神」という見出しの記事がある。大恐慌当時、世界総会の副会計であったウィリアム氏は、封筒を何枚か用意して、中に千ドルずつ入れてから、事務所の金庫に入れておくようにと秘書に指示を与えた。ウィリアム氏自身、わざわざ預金から引き出して、何をするつもりだったのか全く分からなかった。

それから1933年3月3日、彼は肩に圧力を感じ、「今晚ニューヨークへ行きなさい」との声を聞いた。ウィリアム氏は直ちに行動した。彼はニューヨークの口座から三ヶ月分の海外宣教師の給料を引き出し、伝道地各支部の指導者たちに送金するようにとの指示を主から受けたからである。その晩、彼は心が平安で満たされつつ家に帰り、床についた。翌3月4日安息日の朝、彼は新聞配達の子供たちが叫んでいる声で目を覚ました。「号外、号外、国中の銀行が潰れていく！」ウィリアム氏はその場でひざまずいて、危機にあって、自分が神の資金を確保しておくという働きをさせていただいたことを神に感謝した。

日没になるとすぐに、世界総会の会計であったショー氏が、緊急会議だと言ってウィリアム氏を呼び出した。ウィリアム氏以外の委員たちは、世界総会にとって、その日は悲しみと運命の日であると感じた。彼は次のように述べている：「ショー先生の事務所に入ってくる会計士たちの顔は皆緊張していて、小声で互いに囁き合っていた。特に皆、海外の働き人たちのことを心配していた。『銀行が閉鎖されてしまつては、伝道地にいる宣教師たちを支える資金がなくなってしまう。また、彼らを本国に戻すお金もない。』…私は発言の許可をもらい、自分の身に起こったことを話した。ビジネス会議が祈りの会になった。助けを求める苦悩の祈りを捧げる代わりに、神のすばらしい導きに対する讃美と喜びの祈りが捧げられた。今後も謙遜になれるよう祈ることも忘れなかった。この危機の最中に導いて下さったように、常に導いて下さいと祈った。祈りが終わったとき、誰かが『私たちは海外のことばかり気に掛けていて、本部の働き人のことは考えていなかった。彼らの必要はどうやって満たせばよいのか？いつまで銀行は閉鎖したままなのだろう？』と言った。その時私は、金庫に入れさせておいた千ドルずつ入った封筒のことを思い出した。直ちに封筒の中身を注意深く調べると、向こう三ヶ月分の給料の支給に必要な現金が十分あると分かった。海外支部のために送金した期間分と同じ三ヶ月分である。」

ウィリアム氏が祈りを捧げた朝、教会員が大いに動揺したのは言うまでもない。1933年3月4日、幾千もの銀行が永久に閉じてしまった。大銀行やその他潰れなかった一般銀行も、三ヶ月の大混乱が過ぎ去るまでは、再開しようとしなかった。その期間中、米国外に資金を送るのは不可能であった。その間 SDA は一人の宣教師も呼び戻さな

かった。また世界総会は、働きを続けるのに資金を借り入れる必要がなく、予定通りの給料が支払われたのである。

この経験の結果、世界総会は 1981 年 4 月 9 日のレビュー誌に掲載されている方針を取り入れた：

「世界総会の会計は、過去十二ヶ月分の運営費の 20 パーセントに等しい働きの資金を、現金や直ちに換金できる有価証券で保持することが、指針によって要求されている。それは世界総会の通常の運営に必要な分をまかない、かつ起こり得る経済恐慌を切り抜けるためのものである。」

ここで二つの真剣な質問を投げかけたい。第一に、世界総会が保持しておくための資金を私たち教会員に依存しているからには、私たち自身が、個人の経済において、同様の方針を取ることは極めて重要ではないだろうか？第二に、この保持すべき現金はどこから来るのか？

次に挙げる引用文を考慮して頂きたい：

「悩みの時に、家や土地は何の役にも立たなくなる。その時、彼らは怒り狂った群衆から逃げなければならない。そしてその時、彼らの財産は、現代の真理の働きを推進するために用いることができないからである。聖徒たちが、悩みの時がやってくる前にすべての邪魔物を切り捨てて、犠牲によって神と契約を結ぶことが、神のみこころであることを、わたしは示された。…もし彼らが、財産を祭壇の上に置いて、なすべき務めについて熱心に祈り求めるならば、神は、これらのものをいつ処理すべきかを教えて下さる。そうすれば、彼らは悩みの時に自由になり、負担となる邪魔物がなくなる」(初文 127,128)。

「もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして彼らは財産を持っていることを許される。そして悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前に現れるだろう。…働きが必要とするときが来るならば、売ることが彼らの義務なのである。…売る目的は、働いて自給することができる人々に施すためではなくて、真理を広めるためである」(同上 128,129)。

「彼（ノア）は、全財産を箱舟につぎ込んだ」(あけぼの上 92)。

神の民は神の箱舟を完成させる働きに、すべての持ち物をつぎ込み、天の銀行に蓄えをするであろう。

「我々がいかなる値でも物売ることをできない時代が来るであろう。…今こそ、働きを進める時機である」(5T152)。

「もしキリストの愛が、神の民と称する者たちの心の内で燃えているならば、今

日同じ精神があらわされるのを見るであろう。魂を救う働きが、すべてまもなく終わろうとしているのを悟ることができれば、初代教会の人々がしたように、自分たちの持ち物を惜しみなく犠牲にすることだろう」(CS40,41)。

靈感によって示された経済的勧告

教会への証には次のように書かれている：

「お金をいつでも引き出せる銀行があると考えて、運営してはならない」(6T209)。

何故？銀行は倒産する可能性があるからである(5T154)。私たちは自らの経済計画をするに当たって、このような方針を取り入れる可能性を探し求めるべきである。財産のいくらかを取っておくようにしよう。今日、銀行は倒れかかっているのである。

「多額の金銭が働きに与えられるとき、収入の一部を手元に置くようにしなさい。やがて、主の大いなるぶどう園の働きを満たす緊急事態が起こるからである」(EV89)。

「毎週安全な場所に 5 ドルか 10 ドル（当時のお金で）ずつ貯え、病気で行き詰まった時以外は使わないようにしなさい」(2SM329)。

「神の働きのために、いつでも使うことができるように、財産を保持しておきなさい」(5T465)。

「…そしてその時、彼らの財産は、現代の真理の働きを推進するために用いることができないからである」(初文 128)。

私たちの動機は生き残ることではなく、神の働き、すなわち残りの教会の働きにとって益となり助けとなるためである。

借金——致命的な敵

「地価の急騰が、この国を呪っている」(FE317)。

土地を買うためにお金を借りた。土地を整備するためにお金を借りた。家を建てるためにお金を借りた。収穫をするためにもお金を借りた。銀行からお金を借りている人はご存じのはずだが、その利率は決して馬鹿にならない。

「大きく口を開けた利子が、すべての利益を飲み干してしまう」(同上)。

大恐慌が起こると、財産の価値は大いに下落してしまう。けれどももし、神の民が繁栄の時に得たお金を手元に持っていれば、それ(価格の高騰した財産を精算、整理して得たお金)で、借金をすることなく、自分たちの食料を植え育てることのできる土地

を安価で購入することができるようになる。神の摂理により、恐慌が、神の民にとって都会脱出の機会となることを願う。売るべき時に売ることが、最も重要である。

借金——ステータスシンボル

らい病になることを心から望む人がいるだろうか？こんな事を言う人がいる：「僕はいつだってらい病になりたかったんだ。らい病人村に住めるなんて、いかすじゃないか！小屋の周りの眺めが気に入ってる。小屋の中だってすごいんだ！」(小屋とは呼ばずに、マンションとか分譲住宅と呼ぶ方が適切かもしれない)。

「病気が軽い間は周囲のらい病人たちに、僕はお金持ちだと思わせることができるかもしれない。いずれは病気が悪化して、どうにもならない時がやってくると思うけど、今のところは、らい病人村での生活を楽しもうと思う。ライフスタイルもいかすし、もしかしたら、らい病が外に現れ始めるときまでには、誰かがその治療法を考え出すかもしれない。こういう人生も、スリルがあっておもしろいじゃない？」

何とばかげた話だと、あなたは言うだろう。しかし今日、何千何万もの人々が、らい病人村に住んでいるのである。

「らい病を避けるのと同じように、借金を避けるべきである」(6T217)。

倒産——クリスチャンの解決法か？

疑うことを知らない獲物の周りに、サタンは非常に心地よい網を掛けているため、彼らは全く麻痺しているようである。彼らは、借金の罠から抜け出たいとさえ考えていない。サタンの獲物たちは、目先のことばかり考え、ゆっくりと息を引き取るのである。破られた戒めのことは悟ろうとしないで。

十戒はその第八条で「あなたは盗んではならない」(出 20：15)と述べている。この戒めが奥深い経済的意味を含んでいるのは、興味深いことである。

「十戒の第八条は、戦争や不正な取引を禁じており、正当な負債や賃金の支払いを要求している」(CS254)。

「病気で倒れてしまわない限りは、すべての抵当を買い戻しなさい。正当な負債を他人に支払わない罪を犯すよりは、食事と睡眠を拒む方がましである」(CS253)。

「神の恵みによって負債を支払うという厳粛な契約を立て、お粥とパンで生きていける限り、誰にも借りがないようにしなさい」(CS257)。

正当な負債や賃金を支払わないことは、盗みをすることであり、第八条の戒めを破

ることであるというのがお分かりいただけたであろうか。引用文の言葉遣いに注意していただきたい。「要求している」という動詞が使われている。私たちは、道徳的に借金を支払う義務がある。クリスチャンに倒産は許されないのである。

借金が何故らい病に似ているか、お分かりいただけたであろうか。借金を返し損なうというのは、私たちを不幸な霊的状态に置くことなのである。なぜなら、多額の負債を支払うことに失敗することは、第八条の戒めを破ることだからである。

例えば、繁栄時に負債を抱えたとする。仮に経済恐慌が起こると、二つのもの以外はすべて価値が下がってしまう：金の価値と積み重ねたあなたの借金である。手持ちのお金は以前の 6-10 倍の購買力を持つようになる。こういう訳で、緊急時のために現金を手元に置いておくという方針は、手堅い経済的アドバイスである。インフレの時に積み重ねられた借金は、恐慌時に稼ぐお金では返済することができない。なぜなら、負債は膨れ上がる一方なのに、収入はがた落ちするからである。あなたにはクリスチャンとして、恐慌の時にも膨れていく借金を支払う道徳的義務が残されるのである。この状態は、私たちを霊的妥協の道へと進ませ、正当な負債の要求を無視するようになるのである。

「差し迫った必要をまかなうのに、お金を借りる習慣や、借金を清算しようと考慮しないことは、それがいかに一般的であっても、人を墮落させるものである。主は真理を信じるすべての者が、これらの自己欺瞞的習慣から転ずることを望んでおられる。彼らは不正を行うよりは、貧困に苦しむ方を選ぶべきである」(CS255)。

借金から奴隷の身へ

歴史的に(契約書で雇われた)奴隷制度は、負債のために、債務者が自分自身を債権者に売り渡すことによって成り立つ。再臨直前のきたるべき悩みの時にあって、クリスチャンは再び、奴隷制度に直面することになるであろう。歴史は繰り返す(7BC976 参照)。

奴隷の状態は、主に二つの方法を通して来る：征服と借金返済のため生命を売り渡すことによってである。借金を返済するための持ち物が、自らの労働力しかないとなれば、そのために自分自身を売り渡して、一生涯働かなければならない状態に陥るかもしれないのである。「そんなこと、起こるはずがない！」とあなたは言うかもしれない。でもそれは過去に起こったことであり、主はそれが再び起こると予告しておられる。

「昔、犯罪人が裁判人によって奴隷として売られることがあった。ある場合には、債務者が債権者によって売られた。貧困のために、自分自身や子供たちを売ることさえあった」(あけぼの上 362)。

しかり、借金によって奴隷になる可能性は大いにある。神の選ばれた残りの民であっても、神の勧告に対して、サタンが私たちの感覚を麻痺させることはあり得るのである。

「誰もがしていることじゃないか！」とか「これは本当は借金じゃなくて、月々の投資さ！」または「家屋を売れば、いつだって負債額以上のお金を取り戻せるさ！」などと誰かが言うのを耳にしたことがあるだろうか？これらはすべて、借金を正当化するための共通の言い分である。

他の言い方で表現してみよう：「僕は多分らい病かもしれないけど、そんなものいつだって治せるさ！」私は思わず、ハエ取り紙にかかったハエ同士の会話を想像してしまう。紙に羽をくっつけてしまった一匹のハエが、足を五本くっつけてしまったハエに向かって何か言っている。「僕はいつだって逃げられるさ！」と。借金を抱えている人は、大恐慌がやってきても尚、それを返済する義務がある。今のうちに借金から逃れ出て、それに近寄らないのが最善策である。

「でも…」あなたはこう言うかもしれない。「奴隷の身というのは、そんなにひどいものだろうか？」と。歴史は繰り返すということ覚えられたい。過去に奴隷が扱われたような方法で、将来も奴隷が扱われる可能性がある。ある場合では、奴隷たちは家畜のように、強力な子孫を残すために、子づくりをさせられた。女たちは、単に性の対象として用いられた。繁殖で使い物にならない男たちは、宦官(去勢された召使い)としてこき使われた。

「奴隷になることは、死ぬよりも恐ろしい運命であった」(あけぼの上 232)。

借金をため込んだとしても、ちょうどいい時に主が御介入なさって、助け出して下さるであろう、というのは、少々虫が良すぎるのではないだろうか。永遠にわたって私たちのものとなる品性を注意深く磨き、「らい病を避けるのと同じように、借金を避けなさい」との主の勧告に聞き従うべきである。

「銀行預金を失ってしまったり、商売に失敗したりして、気が狂ってしまった人々がいかに多いことか！彼らに逆境が襲いかかり、財産が取り去られてしまうと、天には何も蓄えていなかったことが明るみに出る。彼らは、一時的な、そして永遠の富までもすべて失った。失望のうちに臆病風に吹かれ、彼らは自分自身の生命を絶ってしまう。そうすることによって、彼らは神の御子という無限の値をも

って買われた機会と特権を自ら絶ってしまうのである」(RH1888年9月31日)。

「不品行は恐るべき怪物であり、忌々しい風采をしているが、それを眺めてばかりいると、徐々に見慣れてきて、見るに耐え得るようになる。その後は同情を示すようになり、ついにはそれを抱擁するまでになる」(アレキサンダー・ホープ)。

らい病人の清め

道のたもとで叫び声が聞かれた：「汚れた者、汚れた者！」と。その人がイエスに近づいてくる間に、ニュースは速やかに周囲の人々へと伝わった。近くにいた人は(病気が移るほど近くではないが)「帰れ、自分の小屋に帰れ、らい病人村に帰れ」と叫んだ。しかし、らい病人は辺りに構うことなく、どんどん進んでいったのである。

彼は群衆の中を進んでいった。群衆はどうしただろうか？無論、散り散りに逃げていった。イエスは彼を避けようとはなさらなかった。この哀れな人間は、イエスの足下にひれ伏してこう言った：「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。イエスの答えは、単に「そうしてあげよう、きよくなれ」(ルカ 5：13)であった。こうしてらい病人は、直ちに清められたのである。

兄弟姉妹方、借金という現代のらい病の治療法も一イエスに近づくことである。確かにあなた自身、自分の経済状態を見るときに、ただ「汚れた者！」という言葉しか出てこないかもしれないし、そんな時にあなたは決意を固めて、大声ではっきりと「汚れた者！」と叫ばなければいけないかもしれない。けれどもあなたが、神の恵みによって個人的に、イエスのみもとに来るとき、昔らい病人が清められたように、あなたも清められるのである。イエスは今でも、いやしの働きに携わっておられる。イエスは奇跡的に、それを成し遂げられるのである。

さてあなたも、はばかりことなく恵みの御座に近づいて、神を尋ね求め、果たして神があなたを助けて下さるかどうかわかるか、自分の目で確かめてみてはいかがだろうか。「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われたのと同じイエスが、あなたのために奇跡を行われるであろう。次のような約束がある：

「あなたの心配事や試練が何であろうと、主の前に事情を打ち明けなさい。あなたの心には、忍耐の支えができる。あなたが困惑や困難から抜け出す道が開かれる。あなたは自分が弱く無力であることを知れば知るほど、イエスの力によってますます強くなる。あなたの重荷が重ければ重いほど、その重荷を負って下さるかたにまかせたときの休みは有り難いのである。キリストが提供される休みは条件付きであるが、その条件は明示されている。それはだれでも応ずることのでき

うのです。この「大聖年」「大ヨベルの年」のために、1955 年から準備を進めてきているそうです。ヨベルの年とは、すべての奴隷が解放され、負債が免除される贖罪と和解の年でした。それをローマは計画しており、少なくとも一年間は続くそうです。

そのために、法王は 1997 年をイエス・キリストの年、1998 年を聖霊の年、1999 年を父なる神の年として設定し、その準備を続けています。彼は教会の誤りを謝罪し、「我をゆるしたまえ」と謝罪外交にいそしんできました。第三千年期にむけての「精神運動」だそうです。それはプロテスタント、ユダヤ教、イスラム教、あらゆる宗派との和解一致を成し遂げようとのねらいです。紀元 2000 年にはユダヤ、イスラムの指導者と共にシナイ山に登るという計画だそうです。

この演出はサタンの大欺瞞であることを、私たちはたやすく読みとれるはずです。

1. 「反キリスト」「不法の者（罪の人＝欽定訳）」「サタンの代表者」「サタンの生んだ一大傑作」が、どうしてキリストの誕生を祝うのでしょうか。
 2. 過去において無謬を主張し、そして現在もそれを主張している法王教が、どうして今になって「我をゆるしたまえ」と謝罪するのでしょうか。カメレオンのような法王教にだまされるほど、プロテスタントをはじめとする諸宗教は盲目になっているのです。
- 「カトリック教会は無謬の主張を決してやめないであろう。この教会は、その教義に反対する者を迫害するために行ったすべてのことを、正しいと主張する。とすれば、機会があつたら同じ行為をくり返すのではなかろうか」（大下 319）。
3. 十戒をも変える権威を主張する教会が、十戒が与えられたシナイ山に登るというのは、一体何をもくろんでいるのでしょうか。「各時代の大争闘」を読んでいるセブンスデー・アドベンチストには容易に想像できることです。
 4. 第三千年期は、彼らにとっての「福千年期」なのです。

『何も驚くことはない。キリスト再臨に先立って、全世界は悔い改める。そして義は、千年の間支配する。平和だ。平和だ。万物は、世の初めから同じように続く。だれも、こうした警世家の扇動的な言葉に動かされてはならない』と彼らは叫ぶ。しかし、この福千年期の教理は、キリストや使徒たちの教えと一致していない」（あ上 103）。

「旧教徒、新教徒、それに世俗の人たちも……この合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである」（大争闘下 351）。

「プロテスタントの諸教会内において、共通の教義を土台として合同しようとする気運が強く動き出している。このような合同を達成するためには、たとい聖書

★ 品性は再臨の前に完全になるが、罪深い性質、罪深い傾向、墮落した欲情等は、再臨の時に除かれるのであるから、罪なき完全は再臨前には不可能ではないか？
性質は完全になれないのではないか？

「品性の改変は主が来られる前に起こらねばならない。我々の性質は純潔で清くなければならぬ」(OHC278)。

「神の形にかたどって形成された品性は、この世から来るべき世界にもっていける唯一の宝である。この世で、キリストの教えを受けたものは、その身につけた神の性質を全部天の住居に持っていくのである」(家庭の教育 157)。

※ 墮落した肉体的な性質に罪があるのではない。それは再臨の時に変えられる。パウロは、「肉」という言葉を、二通りの意味で使っている。肉体と生まれつきの心、罪深い性質と。「体内には低い欲望があつて、それが体を通して活動する。『肉』『肉体的な』また『肉体的欲望』という言葉は、低い墮落した性質を総括している。肉体はそれ自体神のみこころにさからって行動することはできない」(アドベンチストホーム 131)。完全は心、品性、思いが新しい傾向に変えられ、罪がなくなることであつて、肉体とその器官、組織、その機能、能力のことを言っているのではない。

★ 神の民はいつ完全になれるのか？

「すべての生きたクリスチャンは神の生命に日毎に進んでいく。完全に向かつて進んでいくとき、彼は毎日回心を経験する。そしてこの回心は、最後の不死の仕上げのための完全な準備、すなわち完全なクリスチャン品性の完成に到達するまでは終わらない」(2T 505)。

「人は生きた頭であられるキリストに向かつて成長する。それは一瞬の働きでなく、一生の働きである。神の生命に日毎に成長するが、その人の恩恵期間が閉じるまでは、キリストにあつて完全なみ像に到達しないのである」(4T 367)。

「法令が発せられ刻印が押されるとき、彼らの品性は永遠に純潔かつ無傷であり続けるだろう」(5T216)。

「我々の出版物によると、生ける義人は恩恵期間の終了以前に神の印を受けるということを感じていることが分かる」(ISM 66)。

「栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることがない」「今や彼らは、誘惑者の計略から永遠に安全なものとなった。」「聖天使たちが生ける神の印を押していた」(国指下 193～197 を参照)。



2000年問題

年末年始の旅行に警告

米政府 交通、金融で混乱懸念

【ワシントン29日共同】「今年暮れから来年初めにかけて外国旅行では、交通機関のまひやクレジットカードが使えなくなる事態に十分注意を」。米商務省は二十九日、コンピュータの二〇〇〇年問題が原因となって、海外で混乱が起る可能性があるとして警告する。「公告を発表、旅行者に注意を呼び掛けた」。

二〇〇〇年問題では、コンピュータの誤作動を厳重に懸念、十カ月以上先の事態に備えた異例の公告となった。事実上、旅行白旗の呼び掛けと言える。公告は「世界のどこで問題が起こるか予測は難しい」として特定の国名は挙げていないが、予想される影響として①交通機関のまひのクレジットカードや現金自動預払機（ＡＴＭ）が使えなくなるなど金融機関の混乱の停電や断水などを指摘。

二〇〇〇年問題 西暦二〇〇〇年一月一日を迎えるコンピュータの年表示が「〇〇」となり、誤作動やエラーにつながる恐れがある問題。

現在多くのコンピュータが西暦年を下けたでプログラムしているため「〇〇」を一九〇〇年など解釈し、発生する。企業や金融機関の混乱だけでなく、トラファルの連鎖で航空機事故や兵器の誤作動、核の漏れがかる。

沖縄タイムス

1999年1月30日

訂正：70人訳聖書について

「新共同訳に対する意見書」において誤りがありましたので、訂正させていただきます。17 ページの70人訳ギリシャ語聖書（LXX）についてです。キリストと弟子たちが用いた聖書は紀元前三世紀～二世紀に翻訳された70人訳聖書だったというのは、誤りのようです。しかし、それが一般的に採用されている意見なのです。日本聖書協会出版の「バイブル・ロード」、いのちのことば社の「聖書辞典」、その他多くの学者もそのように解しています。

しかし、それは何の根拠もない作り話であると主張する学者もいます。70人訳聖書は紀元後3、4世紀にヘブル語、マソラ本文を改悪したものだそうです。「教えの多くは、口頭でなされたが、青年たちはヘブル語の書物を読むことも学び、旧約聖書の羊皮紙の巻物を開いて学んだ」 1 希 60。

参考資料："Textual Criticism, Fact and Fiction, A fresh look at Bible Inspiration, preservation and translation". Dr. Thomas Cassidy. "Defending the King James Bible", Dr D.A. Wait. "New Age Bible Versions" "Which Bible is God's Word" G.A Replinger. "The Definitive Work On Scholarship Onlyism" Dr S. Ruckman. Bible Baptist Bookstore. 等々....

ビデオ：日本語版

★ 「アルプスのイスラエル」

LLTプロダクション作成、3,000 円
専門的資料に基づいて作成された、ほとんど忘れられたワルデンセス
の歴史！幾千年にわたる苦難の中に神の言葉を守り通した驚くべき物
語、彼らの譲り受けた信仰、生き方、教育、伝道、アルプスの山々を
背景にした美しい画像。

★ 「獣のしるし—666」 ジェームス・アラビート

3,000 円

LLTプロダクション作成、
ローマ・カトリック、古代バビロンの異教のシンボルを比較、
世界の大聖堂、彫刻、その教え、習慣はどこからきたかを暴露する。

★ 「どの聖書？」 [Which Bible] ジョー・マニスカルコ 104 分 3,000 円

第一部—ワルデンセスから欽定訳聖書、再臨運動までの純粋な
聖書の流れ。

第二部—使徒達以来、どのように聖書が改悪されたか、現代の
聖書翻訳にいつ、なにが起こったか。改悪聖書の流れ。

.....

● 「現代の真理」

1,500 円

セブンスデー・アドベンチストの信仰の大黒柱、聖所の清めの意味
を探る。

- 1999 年、6 月、7 月にかけてダニエル書、黙示録、雅歌書のセミナーを
計画しています。何人か集まって研究会をしたい方がおられましたらご
連絡下さい。

- ① 切迫する大事件についての預言の研究
- ② 七つの災害から逃れるための備え
- ③ 仲保者なくして生き抜くための経験

「かつてなかったほどの悩みの時」が、間もなくわれわれの前に展開す
る。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれがもっておらず、
また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである」

(大争闘下 396)。

- アンカーに連載された「警告」は縮小版ができました
ので、取りやめます。研究なさりたい方は「警告」縮
小版をご購入下さい。 500 円
- ダニエル 12 章の徹底研究のために 180 頁の「警告」
が出版されました。預言解釈の原則も学べます。
「新世界秩序」構築の接近、大迫害の接近を告げると同
時に、ダニエルの預言が大終結に向けて大いなる光
を投げかけているのを見ます。 1,600 円 (上質表紙)

